

知財AI活用の二大潮流：オムロン vs. 島津製作所 — 自社に最適な導入モデルの選択肢

2つの対照的なアプローチ



オムロン：クラウドAIプラットフォーム型

AWS上に自社専用基盤「RD Buddy」を構築し、インフラとセキュリティに投資する大企業向けモデル。



島津製作所：プロンプトドリブン型

汎用LLM（ChatGPT等）を使い分け、ペタランの隠微知をプロンプト化する通用ノウハウ蓄積のスピードモデル。



オムロンの戦略 — 強固な基盤と全社展開

三層構造の推進体系



知財AIエージェント

開発基盤「RD Buddy」

全社枠組み「AIZAQ」

知財作業の約8割をプロンプト化

検索・分析・レポート生成を自動化し、2027年末までに社内社員の30%（約3,000人）の参加を目指す。



高度なセキュリティと独自性

AWSの閉域ネットワークやAmazon OpenSearchを活用し、キーワード検索では困難な「意味的検索」を実現。

島津製作所の戦略 — 実務直結と圧倒的な定量効果

年間**8,000万円**の
外部委託費を削減

従来の年間約20億円のコストに対し、AI活用による内製化で大幅なコストダウンに成功。



驚異的な業務効率化

海外把持理由対応を「数か月から約2分」に短縮し、他社特許スクリーニングの手作業を90%削減。



自社運用から外販ビジネスへ

知財部主導の少人数チーム（約4名）で開発した仕組みを「株式会社Genzo AI」としてSaaS外販。

徹底比較：どちらのモデルが適しているか？

オムロン（プラットフォーム型）		島津製作所（プロンプト型）	
AWS（Claude 3.5 / Bedrock）	主な技術	ChatGPT / Gemini / NotebookLM	
インフラ・独自システム構築	投資対象	プロンプト・運用ノウハウ	
全社DX、高度な意味的検索	主な効果	劇的なコスト削減、工数削減	
経営トップダウン+現場ボトムアップ	推進体制	知財部長主導の少数精鋭チーム	
セキュリティ重視、投資余力のある大企業	適する企業	即効性、コストを重視する中堅・中小・大学	

知財AI導入への4ステップ



STEP 1：自社の現在地把握

義務を「ロジック化可能（AI置換）」と「高度判断」に分類し、定型業務から着手する。



STEP 2：技術選定の判断

機密性・会社DX重視なら「オムロン型」、低コスト・即効性重視なら「島津型」を選択。



STEP 3：ガバナンスと人間による確認

モデルの使い分け、ステップ指示、入力情報の限定によりハルシネーション（嘘）を防ぐ。



STEP 4：品質担保（島津の三原則）

いかなる場合も専門家が修正する「Human-in-Loop」を前提に、AIガバナンス委員会を整備。

共通の成功要因：Human-in-the-Loop（人間による確認）